

(3)「握力」は、「〇〇〇」の時間にも向上を図ることができる!

バッグを持ったり、絵を描いたり……。日常生活で何気なく使っている力、それが「握力」です。

「手でものを握る力」の「握力」ですが、全身の健康状態とも深い関係にあります。

厚生労働省の研究によると、握力の低下が大きいほど「脳卒中」や「心筋梗塞」などのリスクが高くなることが分かっています。

また、国立長寿医療センターの研究では、男性で26kg未満、女性で18kg未満の人は、そうでない人と比べると、認知症のリスクが約2.1倍となったのだそうです。

そんな「握力」は、学校で普段行っている「そうじ」の時間にも向上を図ることができます。

雑巾を洗って絞る際に、「水が落ちてこないようになるまで絞ること」を意識すると「握力」の向上につながります。

「力強い動き」の向上を図る活動例



掃除の時間の雑巾絞り

学校で普段行っているそうじの時間の雑巾絞り。「水が落ちてこないようになるまで絞る」ことで握力の向上が期待できます。



ぎゅっとにぎって!!

二人でボールを握り、ボールを引っ張り合います。ボールを取った方が勝ちです。ボールを二つにして、両手で勝負をするとさらに楽しくなります。



固定遊具(鉄棒・雲梯・登り棒など)遊び

「力強い動き」の向上につながるような遊び方を紹介した絵や写真などが、固定遊具等の近くに掲示してあると効果的です。



ひっぱれ、ひっぱれ

3~5人組で引っ張り合います。手を離したり、バランスを崩して倒れてしまったりすると負けです。写真は、リングバトンを使っています。